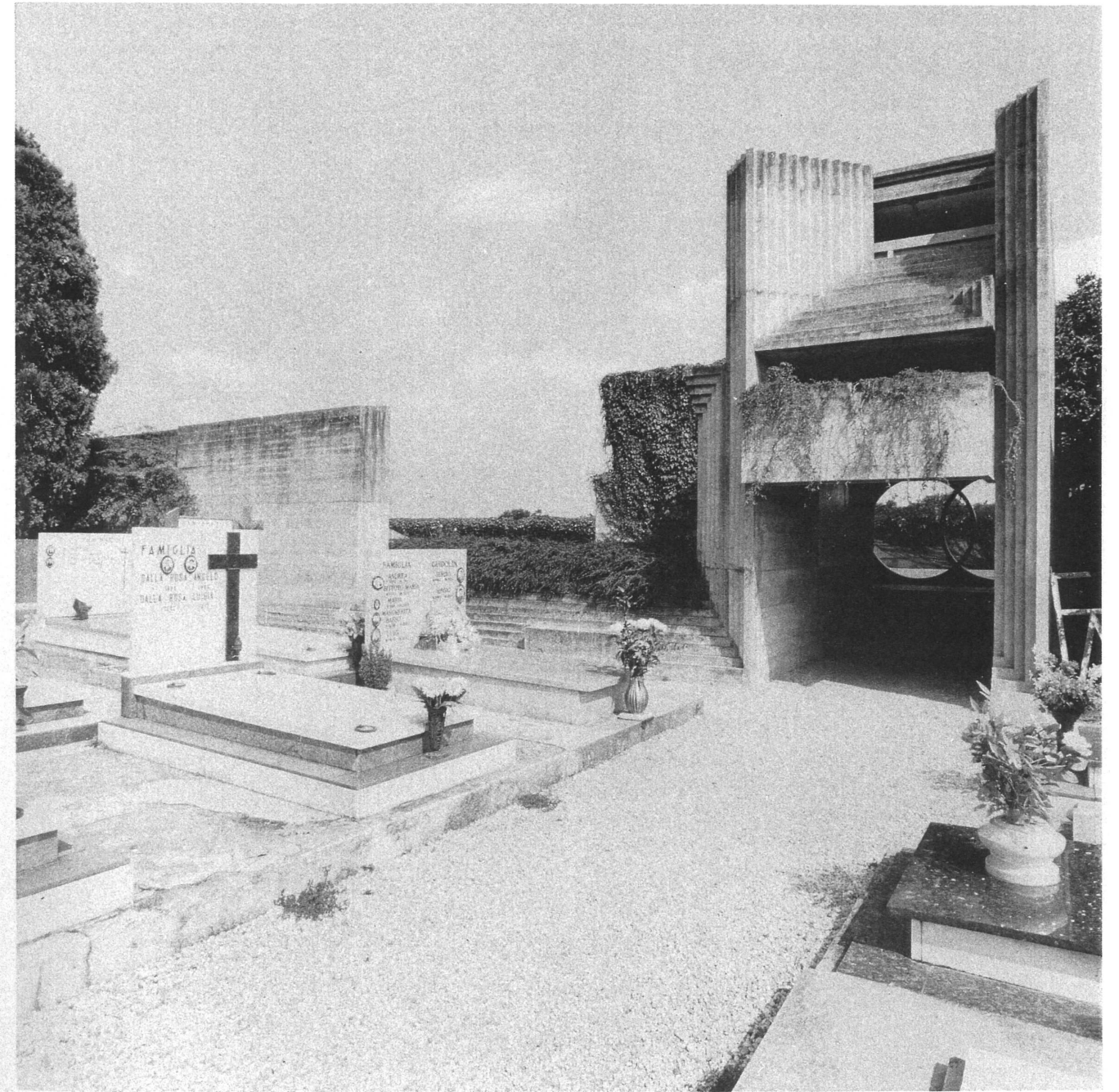


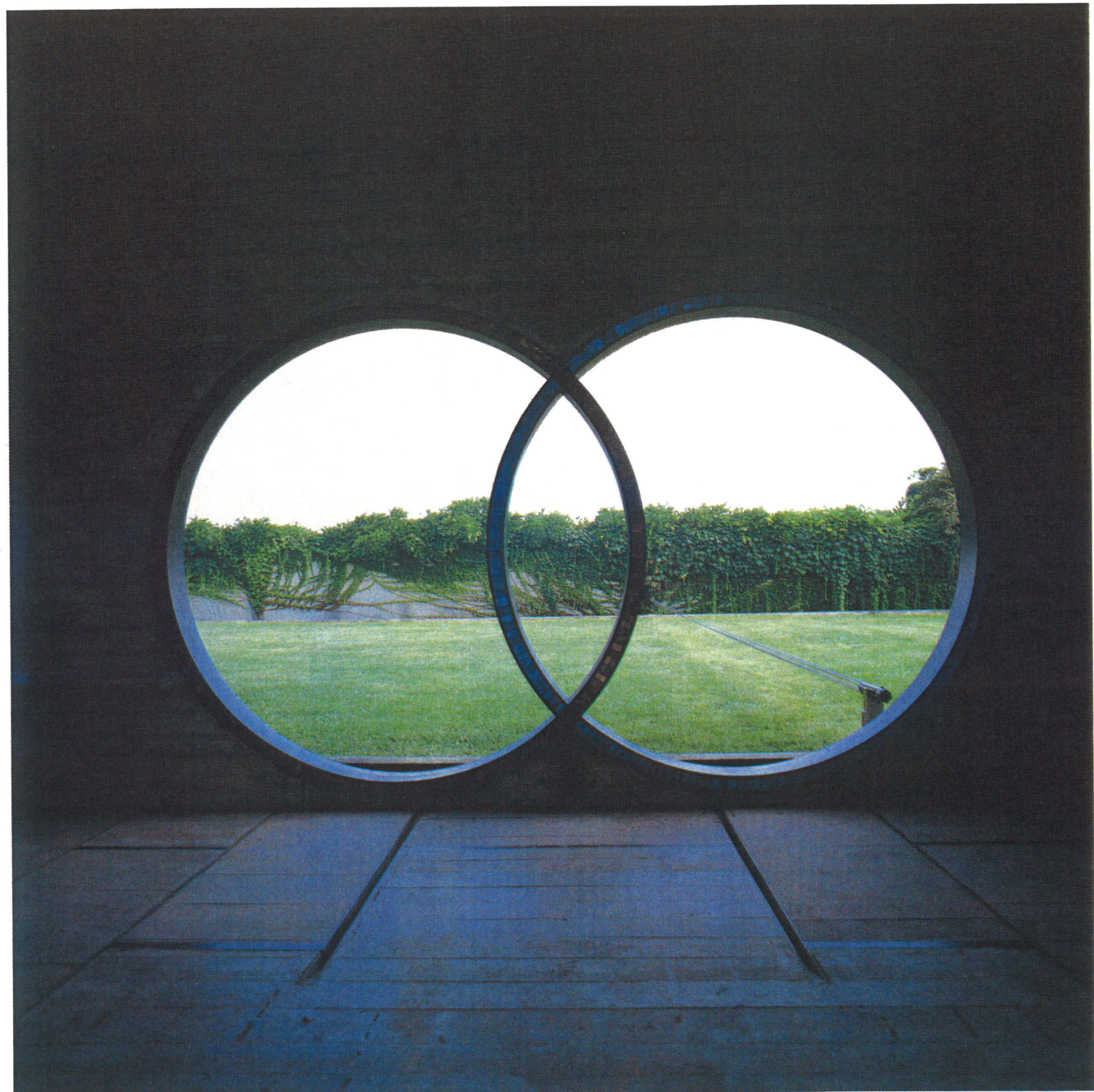
ブリオン家墓地

Brion Family Cemetery
San Vito di Altivole, Treviso 1969-

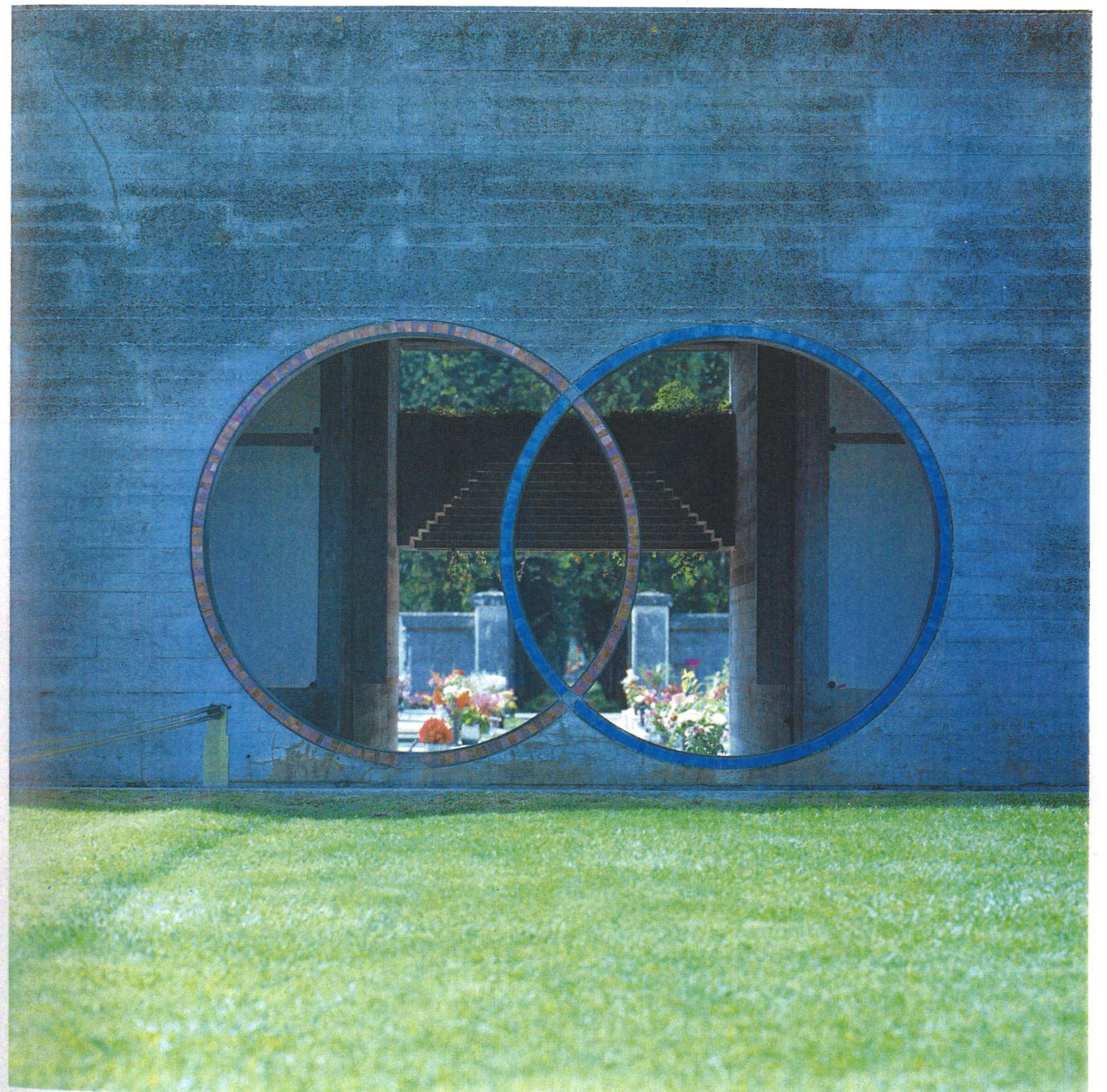
1: 共同墓地側から前門（プロピロン）を見る
Entrance (propylon) from the municipal cemetery



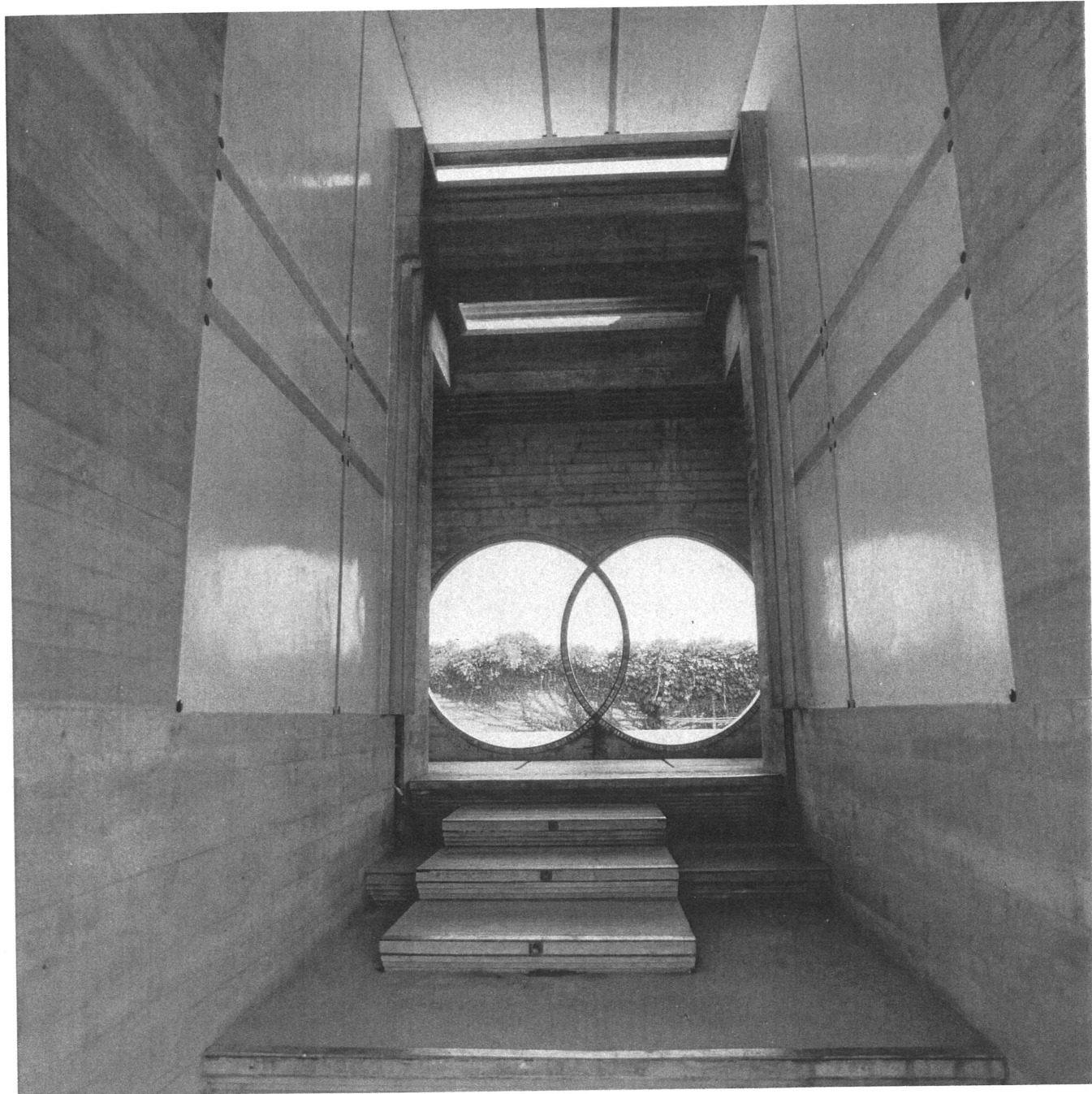
- 2 : 二重門の開口部を通して望む緑の草原
Entrance to the Brion Cemetery
(view from the municipal cemetery)
- 3 : 二重門の開口部を通して共同墓地を振り返る
Coin-metal mouldings (view from the lawn)



2



3

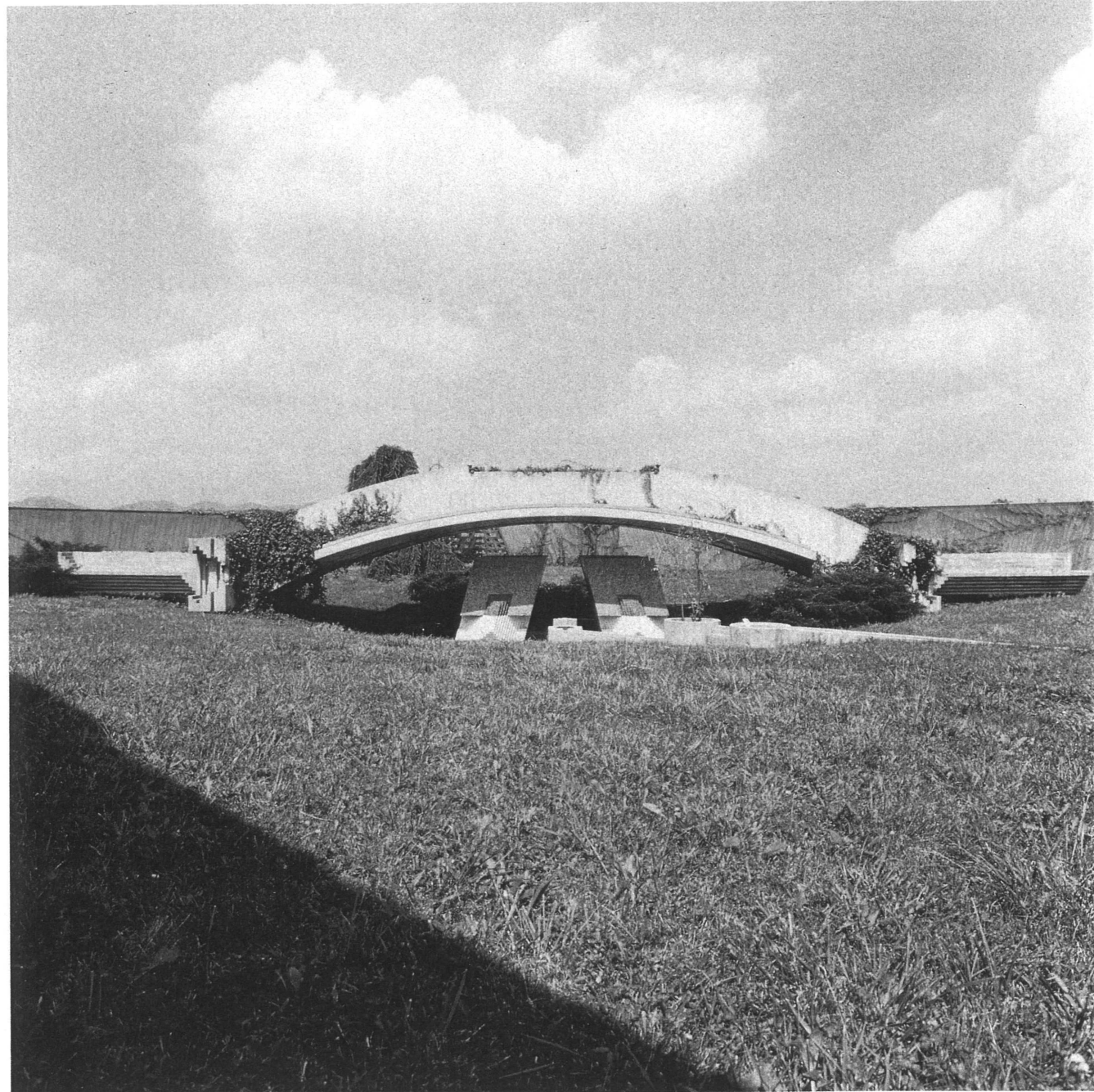


4 : 前門を入ったところ
Entrance from the municipal cemetery
5 : 入口棟の廊下
Corridor (view towards the vertical sliding door)

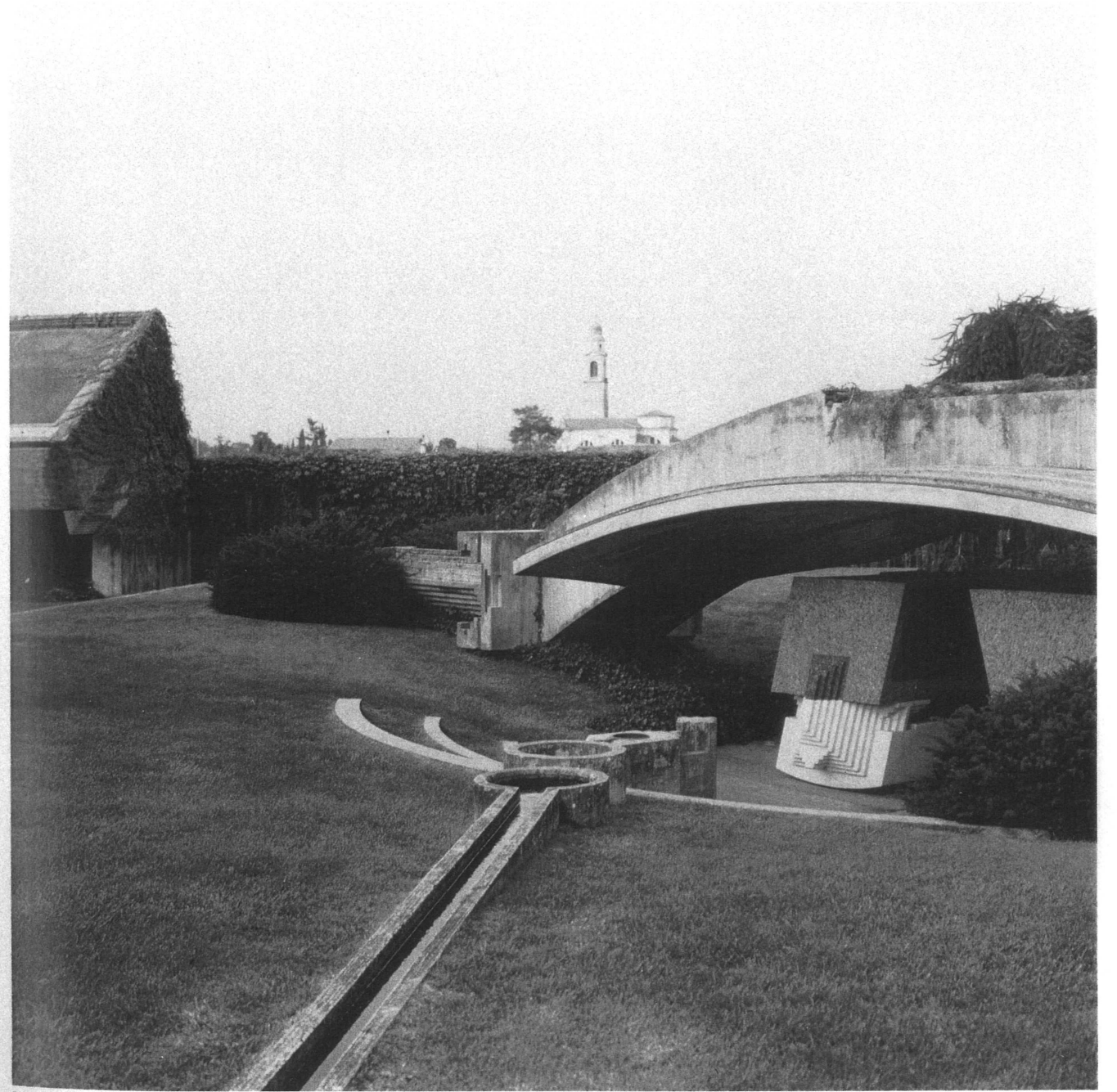




7: プリオン夫妻の墓
Tomb of the Brions
8: 親族の墓とプリオン夫妻の墓
Tomb of the Brion Family



7



8

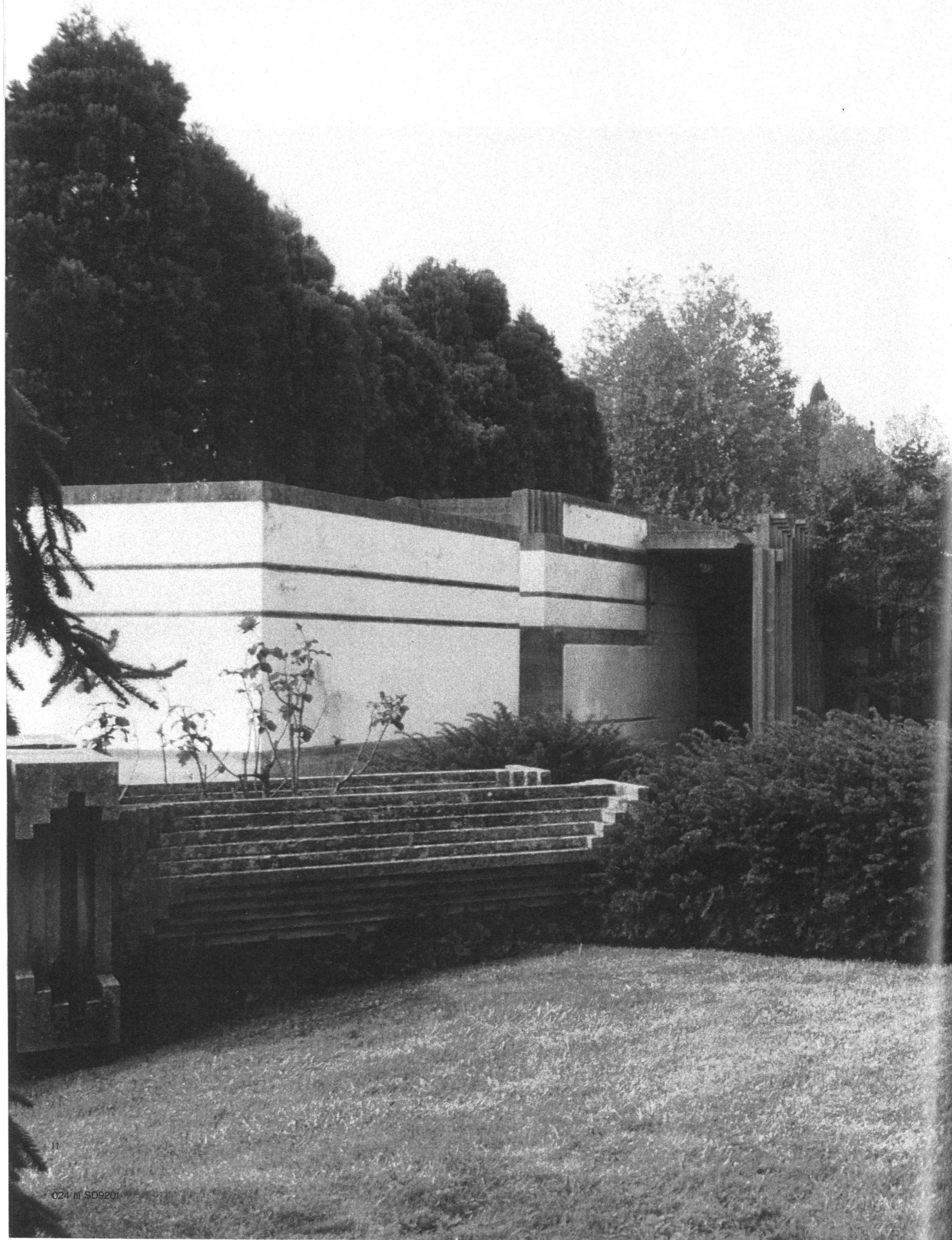
- 9 : ブリオン夫妻の墓
Tomb of the Brions
- 10 : ブリオン夫妻の墓に流れ着く水路
Waterway to the Brion tomb
- 11 : チャペルと親族の墓を遠くに望む
Tomb of the Brion Family and the chapel



9



10



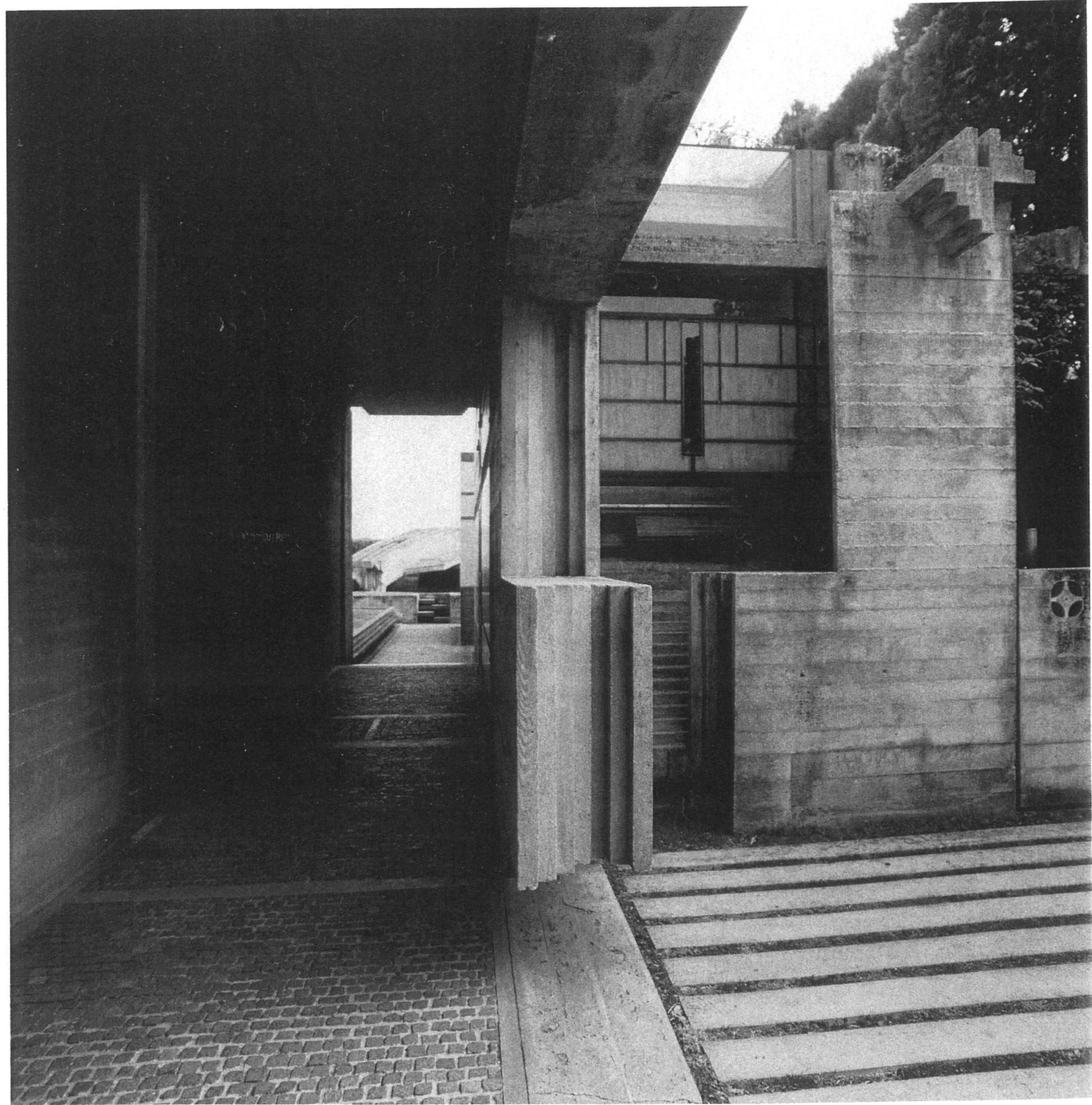
- 12: チャペル内部の祭壇
Chapel (view to the altar)
13: チャペル内部の糸杉の庭への出口
Chapel (view to the cypress grove)



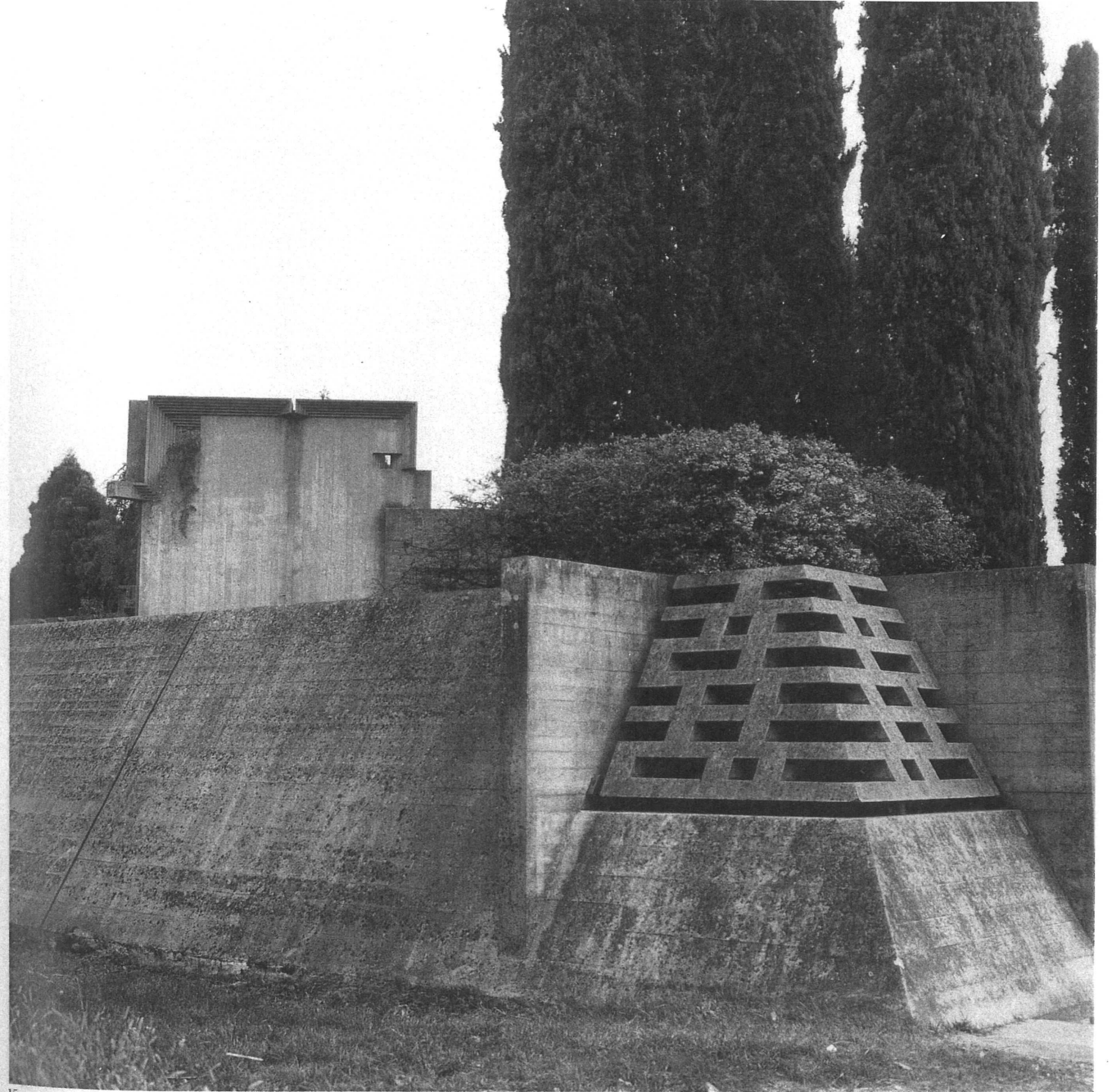
12



13



14

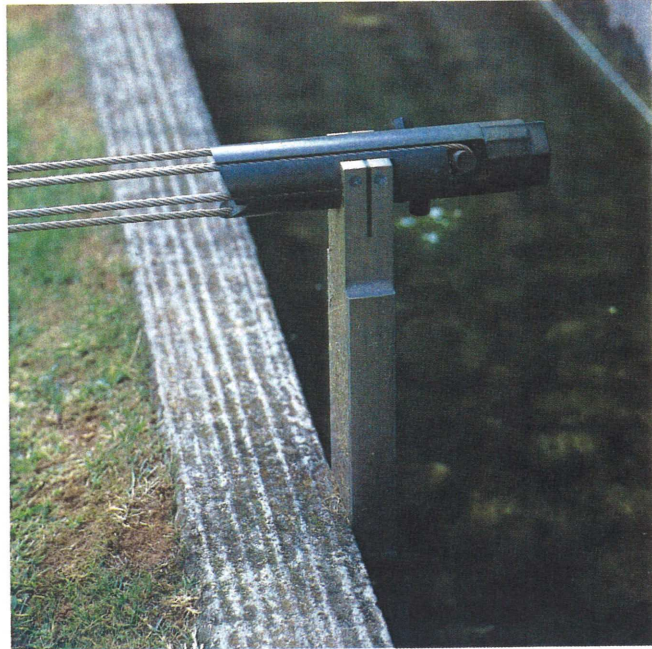


15

- 16: 親族の墓のガーゴイル
Gargoyle of the family tomb
- 17: 仕切り用ケーブルの端部金物
Cable barrier across the lawn
- 18: チャペルの糸杉の庭への出口扉のフロアヒンジ
Chapel; floor hinge of door to the cypress grove
- 19: 糸杉の庭への出口扉下枠の水抜き用溝
Chapel; detail of gate to the cypress grove



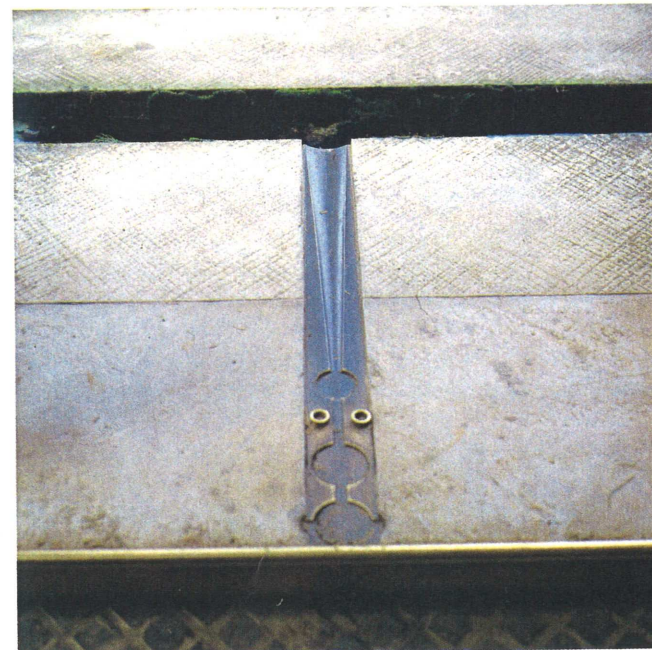
16



17



18



19

ブリオン家墓地：図面

Brion Family Cemetery: Drawings

1: 配図図 1:600 (掲載時)
Plan
Black ink on heavyweight tracing paper

ラジオの修理工から身を起し、一代で特異な電気メーカー、ブリオン・ヴェガ社を築いたジュゼッペ・ブリオン。彼の死を弔い、ブリオン家墓地が生地であるヴェネト地方トレヴィーゾ近郊のサン・ヴィート・ディ・アルティヴォーレに建設されることになった。ブリオン・ヴェガ社は、その製品のデザインを始め、工場の設計にもイタリアの著名なデザイナーを起用し、デザイン志向の強いメーカーとして独自の地位を築いたが、墓地の建設に際してもカルロ・スカルパに依頼することになった。

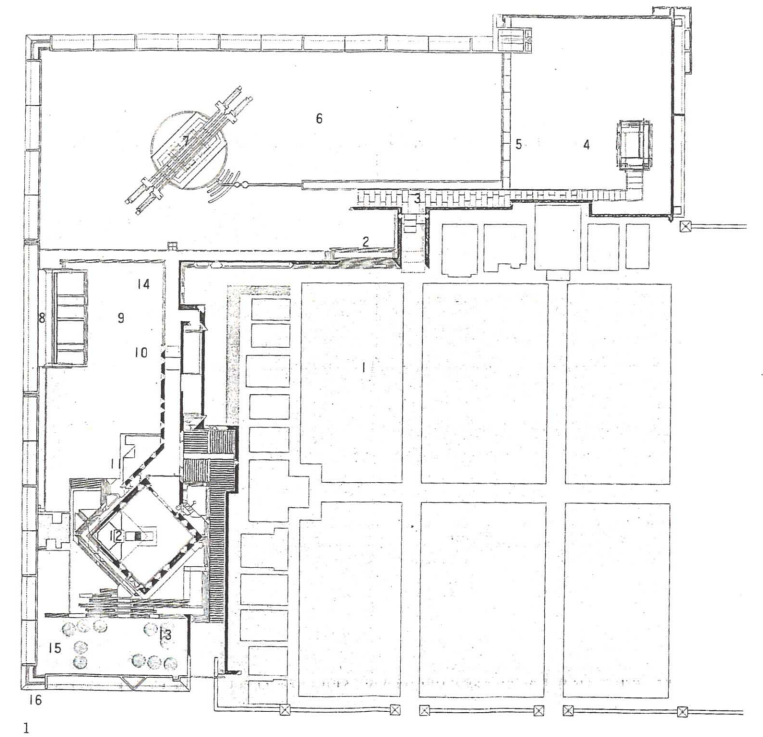
完成当時は装飾過多、回顧的、反機能的などとして概して酷評を浴びたこの墓地は、今や建築を志す若者たちが列をなして訪れる聖地となっている。「これは、長所も短所もすべてが現出したスカルパの貴重な集大成であり、[隠喩としての記念碑]というべき建築である」。

1969年に始められたスカルパの設計作業は建設工事が始まってからも継続して行われ、最後の「天使像」が未完のまま、彼の死とともに終わった。描かれた図面のうち残されているものは約1300枚。ケント紙、ボール紙、タイプ用紙、トレーシング・ペーパー、青図などの多岐に渡る用紙に描き止められた図面は、時として細密で繊細、時として大胆で奔放であり、無限の変化を見せる。それらのほとんどは、プレゼンテーション用、展示用、記録用などのために、形が決定された後に描かれたものではなく、創造過程のただ中において作成されたものである。従ってそこにはデザインの発生から最終の成果までのスリリングな展開が見られ、スカルパの思考の軌跡が明瞭に定着され、さらには思い悩み揺れ動く心や、ついに確たる解を見いだした喜びさえも見て取ることができるのである。

現代の遺産とも言えるこれらの図面の全貌を紹介することは到底困難なことである。何しろ1989年10月12日から翌年の1月15日まで、ウィーンのオーストリア工芸美術館の広大なスペースを使いきって、「もうひとつの都市」と題されて開かれたブリオン家墓地の図面展、その極めて意欲的な展覧会においてさえ、半数足らずの図面を展示できたに過ぎなかったのだから。

ここでの試みは、その中から85点の図面を選択し、少しの解説を加えることで、その一端をかいま見せ、エッセンスを伝えようとするものである。図面は、入口棟付近、パビリオンのある大きな池の周辺、ブリオン夫妻の墓、親族の墓、そしてチャペル周辺という具合に、エリア別に、時間的な前後関係よりは説明との対応関係に重きを置いて並べられている。

なおスカルパの図面はいろいろな方向から描き込まれ、上下の定かでないものも少なくないが、ここでは他の図面との比較のしやすさを考えて、少例ながら上下を逆転しているものもある。



- 1: 共同墓地 Municipal cemetery
- 2: 入口棟の前門 Entrance (propylon)
- 3: 入口棟の廊下 Corridor
- 4: パビリオン Pavilion
- 5: 池 Large pool
- 6: 草原 Lawn
- 7: ブリオン夫妻の墓 Tomb of the Brions
- 8: 親族の墓 Tomb of the Brion family
- 9: 通路 Open passage connecting the chapel and the tomb
- 10: 聖具室 Sacristy
- 11: チャペル玄関 Entrance to the chapel
- 12: チャペル Chapel
- 13: アプローチ Passageway between the sacristy and the chapel
- 14: カルロ・スカルパの墓 Tomb of Carlo Scarpa
- 15: 糸杉の庭 Cypress grove
- 16: 塙 Enclosing wall